



# たまみやっこ

— 夢に向かって 心豊かに 伸びゆく子 —

たくましく元気な子 まじめに勉強する子 みがき合い高め合う子 やさしく助け合う子

## みんなで過ごすことで…

校長 若林 朋子

先月は市内陸上競技大会、そして修学旅行と6年生にとって、大きな行事が行われました。市内陸上競技大会では、放課後練習等を通して自分の力を高めながら本番に臨みました。そこには、他校の児童と共に、自分の力を発揮するために一生懸命競技する6年生一人一人の姿が見られ、その姿はととてもまぶしかったです。また、修学旅行では、仲間と共に2日間を共にし、互いに気遣ったり、思いやったりしながら、見学先での学びを深めていた様子等から、6年生のこれまでの学びの成果を随所で感じることができました。改めて、6学年の子どもたち、一人一人がもっている「とてもすてきな思い」に触れることができた2日間でした。今後の6年生の様々な活動における活躍にも、心から期待しています。

さて、埼玉県では、11月を「いじめ撲滅強調月間」としていじめ問題の根絶に取り組んでいます。いじめは重大な人権侵害であり、決して許されない行為です。ただ一方で、「いじめは良くない」とほとんどの児童生徒が分かっているはずなのにもかかわらず、小4～中3までの6年間で追跡すると、9割の子どもがいじめた経験をもっているという調査結果もあります。(「いじめ追跡調査・2016-2018」国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター【令和3年】) 令和4年度に改訂された生徒指導提要(文部科学省)には、この現状に対し、「頭で理解しているだけでなく、行動レベルで「いじめはしない」という感覚を、学校や家庭での日常生活の中で身に付けるように働きかけることが重要である」と示されています。そのために学校として大切にすべき視点としては、このような調査結果を踏まえ、「いじめゼロ」を目指すだけでなく、「いじめ見逃しゼロ」を目指すことが大切であると捉え、日々の教育活動を実践しています。子どもたちは、日々様々なことを学び成長しています。その中で、いじめ問題に限らず間違えてしまうこともあります。ただ、私たちもそうであったように、間違えや失敗の中から学ぶことがたくさんあります。そこで大切なのは、私たち大人が、子どもたちの間違いや失敗に対し、そこにある子どもたちの思いを含め受け止めること、そして今後どのようにすれば子どもたちがより前に進めるか、一緒に考える姿勢なのではないかと思います。これまで私が出会ってきた、子どもたちや保護者の皆さんから教えていただいたことを改めて実感している今日この頃であります。

ただ、その中で、悲しい思いをしている子がいたとしたら、何よりも優先し、解決に向け対応する必要がありますので、お子さんのことでご心配なことがありましたら、遠慮なく学校へご相談くださいますようお願いいたします。